

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300502		
法人名	医療法人財団百葉の会		
事業所名	グループホーム花咲み(はなえみ)		
所在地	静岡県富士市宇東川西町8番41号		
自己評価作成日	令和4年6月14日	評価結果市町村受理日	令和4年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2292300502-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年7月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様個々に合わせた支援を日々考え、職員全体で支援をさせて頂いている。集団で楽しく・規則正しい生活も大切ですが、一人一人日々の体調は違うため、必要に応じて食事時間をずらしたり、休憩をとっていただいたりや個別に対応させて頂いています。精神的不安定さがある時には、訴えがあるなし関係なく表情や発言にも留意し、ワンツーマンで寄り添うケアを心掛けご支援させて頂いております。お客様について、異動職員・中途職員・既存職員が垣根なく話し合える環境の仲間がいることも、GH花咲みの強みだと思っています。今年度も職員全員で考え実行し、お客様を支える事ができるチームでありたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

所長代行を中心に3名が並んだ様子は日頃の信頼関係とチームワークが滲むもので、快活な受け答えと朗らかな笑顔からは安心感が自然に湧いてきます。理念を基盤とした誠実な姿勢は開設以来変わらずで、管理者の交替があっても脈々と受け継がれている点も評価されます。第三者がそのように感じるのには当然のことで、入職者がいれば家族や地域に便りを通じて紹介、家族が「食事内容を知りたい」と言えば献立表をブログにアップ、「コロナ禍での旅行はバーチャルで」と架空旅行先の郷土料理を提供するなど、きめ細やかで迅速な取組みが日々叶っていて、家族アンケートにも「やさしい」「しんせつ」との言葉が踊っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念として「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」を掲げ、日々のケアや運営に取り組んでいる。またGHとして、「個々の毎日の変化」を大切にしており会議やカンファレンスにおいてズレることがないように共有・実践している。	「自ら受けたい介護～」との理念は法人研修など多様な機会を通じて十二分に浸透していますが、近年はブログでの発信が加わり、外部者にも伝わることでより沢山のひと々と共有するに至っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により外部との接触が難しいが、日々の中で近隣への散歩に出たり、季節を感じるドライブに出かけたりと、出来る支援を継続している。	階下に小規模多機能事業所、隣にも同法人施設があり、開設から6年という月日を積んで他にも周辺の施設との連携が出来上がっていますが、利用者の交流は挨拶程度に留まっています。	コロナ禍で交流が思うようにできないため、地域の事業所や学校と書簡交換(塗り絵、絵手紙を含む)をおこなうことも検討ください。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域のひと々に向けて活かしている	回覧版にて施設の状況や行事などは地域に展開している。 以前は地域向けの勉強会など実施していたが、コロナ禍によりできていない。 ブログUPなど、今出来る事を今後も考えていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため集合開催はせず、ZOOMで実施。実施前にアンケートを依頼し、ご意見やご要望を伺うこととしている。(ご家族の参加意向もあるが、急な仕事等で参加が難しい)	民生委員など地域の主要メンバーを擁し、ズーム開催を始めており、先進的です。事業所の取組みは連合町内会長にも刺激となつたらしく、「原田地区全体でもズーム会議を」との発言もみられます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍により外部との接触が難しい 運営推進会議もZOOMで実施。 事業所の取り組みや、市の職員様にアドバイス等受けている。	コロナ禍となってこれと言った連携はありませんが、介護保険課からは運営推進会議を通じて防災訓練の方法について質問が上がったり、事業所内では「ふじサンサン体操」を励行しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の身体拘束の勉強会を年間計画にいれ施設全体で実施。夜間帯以外は施錠もせず、ご家族にも身体拘束はしない方針を入居時に説明している。徘徊者も職員が同行して散歩や付き添いをするので、行動制限にならないよう心がけている。	身体拘束に係る委員会は、法令では3ヶ月に1度の開催でよいところ、毎月実施しています。さらに利用者個々に見直しをおこない、ややグレーゾーンでもあるセンサーマットの使用を「やめることはできないものか」と検討を重ねている点は秀逸です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフストレスに繋がらないよう、日々の声掛け・困っていることなど全員に声を掛け、仲間にも気になる事等声を掛けるようにし、現場の状況を把握するよう努めている。 虐待防止の研修にも参加。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要のあるお客様はいらっしゃらない。職員へのフォローや研修といった場面で十分とは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書・重要事項説明書について説明を必ず行い、署名・捺印を頂いている。又、お客様の状態の変化や日々の様子をお伝えする事を増やし、ご家族ご意向を伺えるよう取り組んでいる。契約書変更時や介護保険改定時にも承諾を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	顧客満足度アンケートを法人として実施。施設内への掲示もし、ご家族様には集計結果と回答を郵送にて送付している。部署会議でも展開し、反省すべき点、褒めて頂いた点を皆で周知し、支援に反映させている。事業所内にもご意見箱を設置しており、ご意見頂いた際には運営推進会議で報告するようにしている。	法人が年1回家族意見をとりまとめており、事業所では何かあれば改善につなげていますが、直接言ったださる家族もいます。それほど家族とは親密で、メンバーシップを築いています。	職員が異動となると家族は落胆することがアンケートで確認されています。育成を主眼としたものであることを丁寧に説明し、理解を得るよう努めることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談の他必要時に応じて面談を実施している。日々の職員の課題は運営会議等で所長にも報告している。やりたい事を常にスタッフに聞くようにしており、日々の小さい希望から、お客様の利益になる事はしようと伝えている。	職員は期待される存在として階下の事業所に移ったり、またその逆もあり、その中で成長しているほか、褒め合うことを奨励してモチベーションを高め、一人ひとりが建設的な発言ができるようになっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実務評価表を利用し、職員の自己評価と上司評価を行っている。年度ごと職員の力量や経験年数に合わせて目標を設定し、達成することで評価に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会、資格取得に向けた声掛けなど現場リーダーと相談しながら適切な職員が参加出来るよう、促している。中途採用職員には法人全体でのオンライン研修も始まり、どの職員も同じ考えの元働けるよう、取り組まれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染対策のため、他事業所との交流は難しいのが現状である。市のGH連絡会への参加や、法人内の他GHとの連携が出来るような会議の開催等を現在検討中である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様が困っている事の訴えは、GHでの生活が始まってから捉えることが多い。日々の生活の中から出た訴えに、その都度対応し関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まると、これで良かったのか？と戸惑うご家族様が多い。入居して暫くはLINEや電話などで日々のご様子を写真等も使いながらお伝えし、不安を少しでも和らげられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご自宅や介護事業所での初回面談時に、現在使われているサービス・ニーズを伺っている。入居以外のサービスを使うことで、在宅がもう少し続けられるのではないかと、家族も自宅で見られるのではと判断した場合、併設の小規模多機能や同法人内の他サービス、市の介護事業などを紹介することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今日は何をしようか？とお客様と考える機会を持つよう心掛けている。日々の中でお客様に助けてもらったり、お手伝いなど出来る事を増やし自信を持ってもらう。時に、職員の心配をして下さったりと馴染みの関係作りは出来つつあると感じる。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により、面会禁止になる事が多い。ご家族との関係を絶たないために、LINEを使用したビデオ通話や電話などの機会を増やしている。ブログでのご様子報告にも努め、更新を楽しみにされているご家族様もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で家族以外の方との面会は難しくなっている。外出もままならないが、お看取り時や体調不良時などは、できるだけ臨機応変な対応が出来るよう法人にも相談しながら対応している。	面会は出来にくくなっていますが、事業所では併設事業所と力を合わせブログアップに力を注ぎ、毎月100件余の情報提供に至っており、月刊発行の便りの評価とともに、家族からも喜びの声が届いています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で輪になり過ごせるスペースを作っている。9名のお客様なので、こじんまりと仲良く過ごして頂きたいと考えている。時にスタッフ介入が必要な場面もあるが、仲良くお客様同士で会話を楽しまれる場面も増えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所(死亡・他サービスへの移動)後は関係が途切れてしまうことが多い。 隣の施設に奥様のみ移られたお客様がいる。ご主人様との関係が切れないう、日々の窓越し面会、時に隣の施設へ出向き、関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	訴えない、少ないお客様については職員間で話し合い情報共有している。時にご家族にも伺い、過去の情報をいただくこともある。 今何がしたいのか、今まで続けてきた趣味(木目込み・読書・書写など)を継続してい	88~94歳の利用者集団で、80代後半が大半を占めており、自ら要望を訴えることができにくい人もいます。職員が投げかけることで、目がキラキラすることもあって、反応から意向を把握しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	同上		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調・生活の変化・表情の硬い時等日々その都度職員で話し合い、支援に努めている。 こまめに、訪問看護・主治医にも相談し、必要時には助言を頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	新しいケアやサービスの開始時には、ご家族にも連絡しご意向を伺っている。カンファレンスも行い、サービスへ反映できるよう努めている。	居室担当者が主担当として日々アセスメント、モニタリングを重ねる一方で、計画作成担当者が中心となるサービス担当者会議が半年に1回あり、現状に即したサービス提供ができるように図っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	居室担当・計画作成者・リーダーを中心に支援の見直しを行い、皆へ展開、自分とは違う視点も築けるよう気を付けている。新しい職員も増えているため、更なる情報共有が今後の課題である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な体調変化は出勤スタッフが対応し、訪問看護・主治医に連絡・相談をしている。今までのかかりつけ医にかかりたいご希望がある際には、ご意向に添えるよう、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、外部との接触が難しい。花咲み周辺の散歩や職員同行による感染対策を徹底した外出などは行えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	様子や体調の変化がある場合、ご家族にも往診の同席を勧め一緒に今後の支援について考えて頂けるよう努めている。往診後は、ご家族連絡をしてDr指示・観察事項などお伝えしている。最近では歯科受診でかかりつけに行きたい意向に添う事ができた。日々のところでは、OT等多職種連携に努めている。	協力医院が事業所へ来所する訪問診療を実施しており、状況によっては家族にも同席してもらい、医療と家族と事業所が足並みを揃えて利用者本人の健康管理にあたっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と契約の元、24時間365日、連絡が取れる体制を整えている。週に1回、来所頂いており、介護でわからない事や心配な事は相談し助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時には安心してGHへ戻れるよう情報収集に努めている。退院前に病院へ出向き、様子をテレビ電話で繋ぎ現場スタッフも同席の中、質問など病院関係者に問うなどしている。退院後も、ご指導頂いたことを実施。OTやSTにも助言を頂く事もある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には看取り・重度化した場合の指針を説明。同意を頂いている。お看取りはご家族協力なしでは出来ない事をご家族に伝え、ご協力の依頼。お互いにどこまで出来るかを何度も話し合いをしている。重度化についてもこまめに状況説明をするよう努めている。	法人内の看護師チームが作成した看取りマニュアルを備え、事業所としても実績を積んでいて本件への心配はなく、更にNHKが放映した「穏やかな最期を迎えるには」をDVDに収め、全職員で視聴するなど研鑽に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリ・事故発生後はマニュアルの見直しの実施。手に取りやすく一目でわかるよう、流れを一覧で作成している。感染症については事業所内看護師による研修(実践も含む)に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の避難については、1F.2Fとそれぞれ1人体制なので課題が残る。地域との訓練にも制限がある状態。地域主催の訓練に1度参加、隣接のふれあいバンクさんとの避難訓練等行っている。	コロナ禍が続き、防災についてなかなか地域連携が進まないものの、原田地区の町内連合会長からは「防災力強化の底上げ」が宣言され、当事業所の連携を視野にいれていることも表明され、少しずつ前進しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	こやまケアを湖山医療福祉グループで取り組んでいる。 発言で注意すべきところはその都度声をかけており、勉強会の実施も行っている。	毎年継続する研修を通じて職員の接遇知識は養われていますが、それ以前に「こやまケア」の存在は大きく、人に対して敬意をもった関わりができない人は居心地がわるいらしく離職となる程、文化力が高まっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客さまのご意向を伺うようになっているが、コロナ禍により対応できないことも以前よりある。出来る事を職員と所長・代行と確認しながら取り組んでいる。日々のところではおやつを選択して頂いたり、些細な事ではあるが大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入眠時間や体調変化で起床時間を個々に合わせる事をしている。集団生活も大切だが、無理をしない・苦痛に感じない・体調に合わせた生活をして頂けるようにしている。不活発にならないよう、個別での対応もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時はホットタオルでお顔を拭いて頂き、必要な方には髭剃り・お化粧などの促しや準備をさせて頂いている。洋服の合わせ方を相談したり、どれを着るか選んで頂く事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日・嗜好調査・お菓子を選んでもらうなどしている。コロナ禍で一緒に調理をすることは難しいが、メニューを説明しながら配膳したり食材を当ててもらったりしている。ご家族にもお好きな物のご持参を依頼し、提供のご協力を頂いている。	本部の管理栄養士が担当することで栄養加算を取得、運用しています。それに伴い3ヶ月に1回の採血もあるため、食事の質を数値で振り返ることもできますが、まずは「楽しい食卓」を第一としています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理体制加算を昨年度より算定しており、隣接のリライフ宇東川の管理栄養士との連携を行っている。医療的指示がある方の対応についても、栄養管理科・訪問看護・リハビリに情報共有し、助言をいただきながら支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の訪問歯科診療を受けている。その際に助言を頂いて支援に努めている。毎食後の口腔ケアを実施。歯ブラシセット・入れ歯の消毒の実施。食後、義歯を外す指示がある方は、その都度お預かりし対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや生活の見直しをすることで入所後、リハビリパンツから布パンツに変更出来たり、日中帯のリハビリパンツが不要になった方もいる。車椅子の方も、便座に座り排泄出来るよう、介助方法を考え統一し支援している。	申し送りシートには排便、下剤の欄を設け、日々経過観察しています。多様な感覚や意識、動作が複雑に絡み合って成り立つ排泄行動は生活そのもののリハビリとして大切に考えており、入居後向上する例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	往診・訪看にも助言を頂いている。介護職としてできることにも積極的に挑戦し、腹部マッサージ・運動・水分量など個々に合わせた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴でゆつくりと入浴出来るよう努めている。入浴予定日だけでなく、皮膚疾患・便秘禁・発汗・冷えなどで臨機応変にお誘いする時もある。バスクリンの使用や季節風呂なども企画し、入浴も楽しいものになるよう工夫している。	業務日誌には「5月3日から6日の間で入浴がある日は菖蒲を浴槽に入れてください」との申し送りがあり、入浴を清潔確保だけでなく、生活の潤いとして位置づけてくださっていることが伝わります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご様子やご希望に応じて、布団の調整・エアコン使用・個々にあった入眠時間の調整など、個別で対応している。また、日中であっても傾眠傾向や疲れている様子、ご本人希望により居室で休息をとられることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合、薬剤情報の申し送り、注意事項や副作用として考えられること、またそのリスクなどを周知している。CWが下剤等の調整をすることもある。理解をしていてもミスは起こるため、1人で判断しない・迷ったら訪問看護に指示をもらう・一覧にし情報共有・申し送りに記録するなど事故を起こさないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日のご様子・表情・訴えなど日々対応ができるよう努めている。企画でなくても必要であれば個別でドライブに行く等個別化を大切に心掛け努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により難しい。季節感を少しでも感じられる・脚力低下・認知症進行防止の為、所長・代行に相談しながら法人フェーズにしたがって出来る限り対応に努めているが限りはある。在宅時のかかりつけ歯科に行きたいというきぼうがあった際には、ご家族協力・隔離・抗原検査などを実施し、ご本人様意向に添う事ができた。	降りないドライブで季節の風物を眺めたり、ドライブスルーで買い物したりと、できる工夫で利用者の楽しみをつくっています。また所長代行がアテンダントとなり、首里城などの観光地を巡りながら記念撮影というバーチャル旅行も実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の支援(預り金の対応)はしておりませんが、楽しみの1つと捉え、移動販売等今後考えていきたいと思っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	花咲み便りとして施設でのご様子を月1回ご家族へ送っている。1週間に1度LINE電話・電話等を自らかける事はできないが、ご希望があれば対応している。ご本人様のご様子で電話が必要だと判断されれば、ご家族へ相談しその場で協力して頂くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁画をお客様と作成し、会話や作品からも季節感を感じてもらえるように心掛けている。トイレの工夫、夜はライトを暖色にし入眠を促したり、電気の明るさの調整やエアコンの温度調整にも配慮している。昨年冬からリビングにこたつとホットカーペットを出し、床に座る環境も作成した。座りっぱなしにならないよう、座席の見直し等も行っている。	消火器は壁の内部に収める等、設えから気づかいのある事業所です。職員も負けず劣らずで、睡眠導入をスムーズにするための照度の工夫や、炬燵やホットカーペットでの居場所づくり、足腰の鍛錬、生活様式の継続を実現させていて、見事です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事場所とくつろぐ場所を別に用意させて頂いている。昨年はホットカーペット、こたつも出し皆で過ごせる空間も作成。一人になりたい時には居室や別席を作り、スタッフが必要な時はワンツーマンで対応に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、ご自宅で使い慣れた家具の持ち込みを促している。自宅と出来るだけ近い環境を心がけながら安全面にも配慮し、OTに相談しながら家具の配置などを決定し、居室の環境の整備を行っている。	大きな持ち込みはありませんが、趣味の木目込み人形や手芸などの作品が置かれた部屋もあります。作業療法士の助言があるおかげで職員の目配りができにくい居室での心配(リスク)も減っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	杖置きを設置、トイレの案内や居室の案内、自席に個別の座布団を敷いたり、名前を付けたりといった支援でお客様自身が分かりやすいように対応させて頂いている。		